

No.2371

秋薫る白砂の稜線と深山の溪谷美

燕岳～餓鬼岳

実施日 2008年9月26日(金)～28日(日)

天候 雨・晴れ・薄日

リーダー 馬場 清士

参加者 馬場清士、一柳昭、涌井良明、
島本陳重、鈴木政三、鈴木恵
美子 計6名

費用 34,550円 (JR12,890円 タクシー
3,660円 宿泊費 18,000円)

タイム 1日目 穂高駅(10:45 タクシー)中房温泉
(11:30～11:40)第三ベンチ
(13:25)合戦小屋
(14:50～15:00)稜線
(15:25)燕山荘(16:25)泊

2日目 燕山荘(7:00)燕岳
(7:20)東沢乗越
(9:15～9:30)東沢岳
(11:00)餓鬼岳小屋
(15:00)泊

3日目 餓鬼岳往復(6:10～
6:20)餓鬼岳小屋
(6:30)大凧山(8:25
～8:35)最後の水場
(9:50～10:05)魚止の滝
(10:15)紅葉の滝(10:55)白沢
三俣(11:30)タクシー乗
場(11:40 タクシー)薬師
の湯(12:10～
14:20 タクシー)信濃大
町駅(14:45)

1日目 中房温泉の燕岳登山口でタクシーを降りた。大糸線に乗っていた頃から、パラパラと降り出した雨が止まない。

雨具を着け、身支度を整え、登山届けを投函し歩き始める。クヌギやコナ



ラの樹林で、クマザサの登山道をいきなりジグザグの急登を強いられる。第一ベンチ、第二

ベンチを過ぎ、第三ベンチから富士見ベンチまでなおもジグザグの急登が続く。晴れていれば、富士見ベンチから見える有明山も見えないが、クヌギやコナラの黄色、ナナカマドの赤が美しい。

雨の降るなか合戦小屋で一息入れ、合戦の頭まで最後の急登だ。

森林限界を越えてハイマツ帯の中を登り稜線に出る、晴れていれば、明日行く東沢岳、餓鬼岳や表銀座が見えるのに残念だ。テント場を過ぎると燕山荘だ。16:25着



2日目 快晴、ご来光が素晴らしい、遠く富士山を真中に、左に八ヶ岳連峰、

右に南アルプスが雲海の上に浮かんでいる。

槍の矛先から槍穂連



峰が、朝日で赤く染まっていく、素晴らしい眺めだ。朝食を済ませ燕岳に向かう。花崗岩のオブジェがなんとも奇妙だ。花崗岩の白砂とハイマツの緑、赤く染まった高山植物の小さな葉のコントラストが美しい。北燕岳を越え稜線に行く、立山、劔岳が望める。東沢下降点から約400mを一気に、ナナカマド、ダケカンバの樹林の中を東沢



乗越までひたすら下り、約200m登り返して東沢岳に出る。ここから剣ズリを越



えて樹林帯に入るまで岩稜帯や悪場が続き、緊張とスリルの連続で気が抜けないが、展望は最高だ。黄葉を見ながら樹林帯を行くと



餓鬼岳小屋だ。ザックを下ろし、餓鬼岳を往復する。



山頂からの展望は360度、立山、剣岳は雪化粧を始めた。



3日目 朝食後、餓鬼岳山頂は雲の上。富士山を初め雲海の上に山々が顔を出している。小屋の裏手から、いきなり百曲りの急降下が始まる、大凧山まで約600mの下りだ。暫く笹の道を行き、白沢源流となるガレ場から、魚止の滝まで約700m急降下する。字の



如く本当に白い沢で、黄葉と緑が映える美しい沢だ。栈道と梯子、鎖を伝い、沢を左右に渡り、



高巻きを繰り返し下る。魚止の滝、紅葉の滝を過ぎ白沢三俣まで、緊張の連続でもあり、充実した山行でもあった。いつかまた、歩いてみたいコースである。参加された皆さんお疲れさまでした。



(記・馬場 清士)